

平成 24 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501417		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	南光台ケアセンターそよ風	ユニット名	
所在地	仙台市泉区南光台南2丁目26-10		
自己評価作成日	平成24年7月 26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月1回ボランティアによる音楽体操を行っています。笑顔が少なかった入居者様が少しづつその時になると自然に手足を動かしたり、笑顔が見られるようになっていきます。また、子供の御神輿見学などになると、入居者様の笑顔が多く見られています。地域とのつながりを大切にすることで、生き生きと楽しみを持った生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人「ユニマツそよ風」は東京に本社を持ち高齢者複合介護施設を全国に展開している。ここ「南光台ケアセンターそよ風」は高台にあり、南光台の住宅地を眼下に遠く泉ヶ丘、セツ森を眺める景色の良い所に位置している。敷地内に通所介護、ショートステイがあり廊下で繋がっているため、ボランティアのイベント時や施設行事、機械浴利用時等行き来し交流を図っている。地域との関わりも盛んで、ごみ集積所の清掃、小中学校運動会、避難訓練参加等しっかりと地域に溶け込んでい。今年7月より就任した責任者は「利用者本意」をスローガンに掲げ、入居者が「あたりまえの暮らし」ができるようサポートしていきたいと意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 南光台ケアセンターそよ風)「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護支援経過表や医療情報記録に意識統一を図って皆が同じ認識で気付きや工夫を記入していけるよう努めている。	「地域との関わりを大切にし、温もりの中、個々が自己実現できるよう支えます」を理念とし、年度末に職員全員で話し合い継続する事を決めている。理念をホール内に掲げ日々確認し、ケアに活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会のゴミ集積所の清掃活動に参加している。センター全体の消防訓練にも参加して頂き、入居者様の避難誘導をお手伝いして頂いている。	町内会に加入し地域との交流を大切にしている。婦人部の日本舞踊、音楽体操等ボランティアの来所がある。事業所開催の「そよ風祭り」には町内会の協力を得て屋台等をだし、大勢の地域住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れできる体制を整えている。随時受け入れ時は、認知症の方への理解を深める場として貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催し、施設での取り組みの報告を行い、その後の2ヶ月の取り組みについて相談している。運営について指導・意見を話してくれ協力してくれる。	奇数月最終土曜日に開催している。毎回地域包括支援センター職員、民生委員、町内副会長、東部連合会長、家族が出席、年1回区役所職員が参加し介護保険法改正、乗車証変更等の説明があり充実した会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年1回運営推進委員会に出席して頂いています。事業所の運営にあたって意見や指導を頂き、質の向上を目指している。	介護保険更新時、区分変更時等区役所窓口で相談、助言を頂いている。包括支援センターと連携を取り、南光台ケアマネ会議、包括ケア会議等に参加し情報交換をしている。会議でボランティア友の会の存在を知った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	道路に面している為、玄関の施錠を行なっている。徘徊する入居者への安全を配慮しているが、できるだけ、見守りを重視したケアの工夫により極力施錠をしなくても安全面を配慮できる環境をつくっていきたくと模索している。	職員は2か月に1回の法人内合同で「身体拘束の廃止、虐待の防止」についての研修や事例検討を行い、身体拘束にあたる行為等理解を深め、日々のケアに取り組んでいる。また市主催の「介護職員スキルアップ研修」に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター内で身体拘束・虐待防止委員会を設立している。様々な事例検討などを含む内容で知識を深める機会をもっている。職員全員で周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人をお願いしている人はいません。成年後見人実習生の受け入れを通して職員との交流の機会をもち理解を深める機会となっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み前に極力、ご家族やご本人に施設内の見学を通し十分な説明を行なっている。不明な点や不安な点などを確認しながら十分説明を行なった上で納得してから申し込まれるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰もが気兼ねなく投稿できる意見箱を玄関に設置し、区役所・国保連の相談窓口の連絡の仕方を説明を行なっている。意見要望に関しては検討会を行なって沿える様に努力していきます。	家族面会時や年1回の家族会の時に意見、要望等を聞いている。医療費控除を受けられる書類を別にする等対応した。毎月の「そよ風便り」は担当職員のコメントと顔写真入りで近況報告を家族に送り大変喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンスを月に各1回ずつ行なっている。職員同士が意見を言い合える環境を目指している。また、年1回の面接にて意識の統一を図っている。	ミーティング時に職員の意見、要望を話し合っている。「人員不足」「入浴を機械浴に変える」等検討し対応した。センター長、管理者との個人面談を予定している。資格取得には勤務体制や金銭面で応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所としての知識不足があり、全員で知識・技術・意識の向上ができるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人数が少ない為に研修に出席する時間が確保が難しい。代表で出席した人から全員に周知することで知識を深めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修を通して同業者との交流する機会を作ることが出来ている。また、連絡協議会に入会し様々な研修にて知識の向上を図り深めていくことを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は環境が変わり、本人にとって場所・物・人の全てが変わる事での不安を理解した上で意見を言うのではなく、共感し不安を分かち合えるような思い出話を聞くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居可能となったときなど、入居前の訪問・相談来所、電話相談など現状の把握に努めると共に信頼関係を築くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ニーズに合わせ、利用可能なサービスの検討を行なっている。申し込みの中から緊急に必要な方から入所できるように入居判定会の際には家族の状況も踏まえ入所決定を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で掃除・調理・食器拭きや後片付けなど、洗濯物たみも職員と一緒にしている。畑から一緒に野菜の収穫の喜びを分かち合って関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換を行い家族が担当できることはお願いし相談しながら家族・スタッフ共に支える関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、誰でも来訪できるように環境を整えている。希望があれば、家族と食事などの外出や外泊が出来るように支援している。	近隣の昔なじみの方が散髪してくれるのを楽しみに出かけている。家族の方に声をかけて、外泊、外食等協力をお願いして馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の入居者様の様子や会話を通して、入居者様同士が孤立しないように職員が介入したり入居者の席に配慮するなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族の相談・施設として出来ることを情報提供を行い、本人家族が困らないように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には、なじみの家具などを設置し、自分の部屋として自覚できる環境をつくり安心できる生活の場として受け入れやすい環境を整える支援を行なっている。	職員は日々の関わりの中から思いを引き出す工夫をしている。カレーが食べたいとの会話から実現したり、裁縫好きな方に声かけて刺繍の作品を完成するまで支援し展示する等対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学・入所・実調・入所時ニーズの把握の為、在宅時担当していたケアマネージャーから情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングやカンファレンスを通して情報交換を行い、援助計画表の見直し等を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにて介護援助計画表の見直し(ケアプラン2表参照)を行ったり、担当者会議にて意見を反映し現状に即した計画書を作成している。	全体カンファレンス時の情報と担当職員や家族の意見等を参考に3ヵ月毎に見直しをしている。入所時は1ヵ月目に見直しをしている。状況に変化があった時はその都度見直しをする。家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過表や医療情報記録に意識統一を図って皆が同じ認識で気づきや工夫を記入していけるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の心身状態によっては、グループホームの個別浴槽に囚われることなく、敷地内が複合型施設である事を活かし、デイサービスの機械浴を使用して安心して入浴を楽しめるよう工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活上感じた内容を家族と相談し、入所しても趣味の時間を作り楽しみのある生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応の受診が原則ではあるが、スタッフの同行にて生活状況を話し情報提供している。バイタルチェック表を持参するようにしている。	家族の希望により往診クリニックで2週間に1回の受診の方が5名いる。かかりつけ医の受診は家族対応としている。受診結果は医療情報記録に記載して職員に周知し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時に日常生活においての水分量や排泄量に対する対応などを相談し合える環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会を行い、主治医・看護師・ケースワーカーから状況を聞き家族等と相談しながら情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期を迎える指針について入所前の説明の段階でご家族に協力して頂くことと事業所として取り組んでいくことを説明している。	「重度化した場合の対応に関する指針」を成文化して、ホームでの限度範囲内で最大限の支援を行うことを入所時に本人、家族に説明している。緊急時はオープン病院の対応との連携が取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通して、急変時にどのように対応したらいいかをフローチャートを通して確認するよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練を実施している。夜間想定での避難訓練など、地域の人を巻き込んだ消防訓練を開催している。	夜間想定での避難訓練を年2回実施している。地域の方には事前に具体的内容を話し、入居者の避難誘導をお願いしている。防災設備の定期点検は業者と一緒にこなっている。備蓄の点検、交換もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待にならないように注意して対応している。排泄時は必ず扉を閉めるなど人としての羞恥心を大切にす最低限の配慮には気を使っている。	「散歩に行きましょう」等命令口調にならないように言葉づかいに気をつけている。呼び名は本人、家族と相談して名字や名前に「さん」をつけ使い分けている。朝や外出時の着替えは本人本位のスタイルを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の着替えを本人と一緒に選んだり、入浴剤を選んで頂くなど自己決定を大切にしたいケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望を知るために面談を行い、生活の中で希望をかなえられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後、自分で着たい服を準備できるように声かけと見守りにて対応している。自分で決められない方には職員との会話を通して選べるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備のテーブルを拭いたり箸を並べたり大根おろしをしたり、食器を拭いて片付けたり、入居者様一人ひとりに合わせた内容で支援している	本部で作成した献立を職員が調理している。検食として1名と一緒に食べている。入居者は盛り付け、洗い物等できる事をしている。月1回の「お腹いっぱい会食会」は好みの物を食べる楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や排泄摂取量や食事摂取量の記録を毎日その都度実施して、把握できる環境になっており体調管理の目安になるよう役立てている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の口腔状態に合わせた歯ブラシやスポンジを使用する等工夫した取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・水分チェック表を利用し、入居者様の排泄パターンを把握している。トイレで排泄が出来るように支援している。	一人ひとりの状況に合わせて支援している。おむつの方2名は居室で交換するよう配慮しているが、できるだけトイレで排泄するようにしている。夜間は厚めのパットを使用する等安眠できるよう個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午後の軽体操時に腹部をマッサージする体操を盛り込んだ内容を取り入れて便秘予防を努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を行なっているが、拒否のある方に関しては入浴剤を選んで頂くなど、入浴を楽しいと感じてもらえるよう取り組んでいる。	曜日、時間帯は本人の要望に応じているが、週2回は入浴して頂けるよう支援している。1対1で対応し、安全にゆったり入浴を楽しんで頂いている。身体状況により隣接するデイサービスの機械浴を利用している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時、ベッドメイキングを行い、個々の生活パターンに沿って気持ちよく休めるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容と副作用についていつでもファイルをみることでいつでも閲覧できるような環境を整えて理解し確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた食器の片付けや掃除のお手伝いや調理の手伝いなど、役割を持って負担のないように配慮して行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事(子ども会のお神輿)の見学などに参加している。入居者様の希望を聞いていつでも散歩をしたい時などは散歩できる体制を整えている。	天気の良い日に近隣の散歩、床屋、地域のイベントに出かけている。ホーム中庭に野菜畑があり草取りや水やり、収穫等を楽しんでいる。施設専用車を確保できたので今後は大いに利用して、季節を感じる外出にも出かけられるようお願いしたい。	前回の外部評価の課題であった施設専用車を確保して入居者の希望する所へ一緒に行きたいという目標は一部達成されたが外出の実践に至っていない。実践に向かって取り組んで頂いていただくよう期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自管理で一定のお金を持っていただき、一定の金額を事務所でお預りして管理している体制を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった際には、職員が見守りのもとでお話を楽しまれている方もいる。出来る方に関しては年賀状を書いて頂き、家族へ送った人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・フロアに季節の花を飾ったり入居様が作った折り紙の作品作りを展示したり、写真を飾るなど生活観のある居心地のよい環境を目指して取り組んでいる。	居間は広くゆったりとくつろげるスペースである。日当たりがよく空気に湿気がなく、湿度温度が適確である。壁に手作りの作品や七夕飾りが飾られ、季節を感じられる。ソファ、テーブルの配置には配慮があり、おしゃべりしたり、テレビをみたりと思いいい過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角にソファとテーブルを設置して入居様が思い思いに横になったり一人で過ごせるような環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたなじみの家具や椅子などを家族様と入居者様で話し合っ持ち込んでもらうことで居場所をつくる環境を整えている。	居室入り口に顔写真と表札が掲げられてある。馴染みのタンスや椅子、テーブルが持ち込まれ、家族の写真、思い出の品が置かれてその人らしく暮している自分の部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札には名前だけでなく写真を貼ることで自分の部屋と認識できるような工夫をしている。トイレにおいても大きく見やすくトイレと表示している		